

# コーホート変化率の地域分布からみた東京圏における地域人口の動向

## Trends of Regional Population in the Tokyo Area from the Geographical Distribution of Cohort Change Rate

田村朋子・小西純（公益財団法人 統計情報研究開発センター）

Tomoko Tamura, Jun Konishi

(Statistical Information Institute for Consulting and Analysis)

tomokotamura@sinfonica.or.jp, junkonishi@sinfonica.or.jp

### 1. はじめに

我が国では人口減少や少子高齢化が進んでいるが、その進展具合は全国一律ではなく、地域によって異なる。全国の傾向を踏まえながらも地域別にその状況を把握し、地域に合った適切な対策を検討していくことが今後より重要になると考えられる。少子高齢化のさらなる進行と同時に地域の人口構造も変化していくと考えられ、現在の状況だけでなく、変化の傾向についても把握しておく必要がある。さらに、地域の状況を正確に把握するためには人口総数だけでなく、男女年齢別にも見ておくことも重要である。

本報告では、これらのことを踏まえ、国勢調査に関する地域メッシュ統計データと GIS を利用し、大都市圏や都市圏など比較的広い地域範囲を対象として、都道府県や市区町村などの行政界にとらわれずに、地域人口の変化の分布を明らかにすることを目的とする。具体的には、東京圏（埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県）の1都3県、東京都島嶼部は除く）を対象とし、平成22年及び平成27年国勢調査に関する地域メッシュ統計データを使用して、2010～2015年におけるコーホート変化率を算出し、最近5年間における地域別の人口増減の分布傾向を男女年齢別にみる。また、特に人口が増加している地域をいくつか取り上げ、その地域の特徴をみることにする。

### 2. 研究の方法

#### (1) 使用した統計データ

本研究で使用するのは、平成22年国勢調査及び平成27年国勢調査に関する地域メッシュ統計データの男女年齢5歳階級別人口であり、地域区画は2分の1地域メッシュ（約500m四方）である。また、2010～2015年において人口が増加している地域の分析においては、平成27年国勢調査に関する地域メッシュ統計の8分の1地域メッシュ別データも併せて使用した。

#### (2) 集計方法

本研究では、2010～2015年のコーホート変化率の算出は地域メッシュ区画別ではなく、次のような方法によって行った。まず、GISを利用して2分の1地域メッシュの各区画の図形重心点のポイントデータを作成し、このポイントデータに当該地域メッシュの平成22年及び平成27年国勢調査の男女年齢5歳階級別人口のデータを結合して、集計用の基礎データとした。次に、各地域メッシュの図形重心点を中心とする円を設定し、各円の範囲内に含まれる地域メッシュの図形重心点を列挙して、2010年、2015年の男女年齢5歳階級別

人口を集計した。この集計結果を利用して、2010～2015年のコーホート変化率を、総数（男女計）及び男女別に算出した。なお、設定した円の大きさは、ここでは各地域メッシュの図形重心点を中心とする半径 3,000m とした。

### 3. 分析

(1) コーホート変化率の地域分布及び基本統計量、度数分布表、ヒストグラムによる分析  
先述した集計方法により算出したコーホート変化率を地図化して地域分布をみると、年齢コーホートによってその傾向は異なる。総数（男女計）については、特に 0～4 歳→5～9 歳、10～14 歳→15～19 歳、15～19 歳→20～24 歳、20～24 歳→25～29 歳、25～29 歳→30～34 歳、30～34 歳→35～39 歳のコーホート変化率は地域によって差が大きい。また男女別にみると、地域分布の傾向に違いがある年齢コーホートがある。

さらに、コーホート変化率の基本統計量の算出と度数分布表及びヒストグラムの作成を行い、東京圏におけるコーホート変化率の統計的な分布についても整理した。

#### (2) コーホート変化率が高い地域の分析

東京圏においてコーホート変化率が高い地域メッシュ（図形重心点）について、上位 10 位までのリストを作成し、これらの地域の分析を行う。年齢コーホートによって、上位 10 位内の地域メッシュ（図形重心点）は異なっている。